

3. 癌患者における AHCC の使用経験

上山 泰男

関西医科大学 外科 教授



Active Hexose Correlated Compound (AHCC) は、担子菌培養抽出物である。担子菌類由来の物質には、医薬品としてレンチナン、クレスチンがある。いわゆる、健康食品として、アガリクス・ブラゼイ、マイタケ、などが利用されている。AHCC の糖質は約 9 % で β -グルカン を 0.2 % 含有している。特徴的なことはアセチル化 α -1, 4 グルカン を含有していることである。

私共は、昨年 12 月までに 829 例の癌患者において AHCC, 3.0 (～6.0) g/日, 3 分, 食前摂取していただいている。癌の内訳は、肝細胞癌 219 例, 膵癌 114 例, 大腸・直腸癌 84 例, 胃癌 71 例, 乳癌 64 例, 肺癌 47 例, 胆嚢癌 39 例等である。

肝細胞癌 (肉眼的治療切除) の症例で cohort study を行った。AHCC 群 (n=113) とコントロール群 (n=109) で、術前臨床データ, 腫瘍因子, 肝切除量, 輸血量, 等には差は認められなかった。しかし, AHCC 群においては無再発生存率, 術後生存率が有意に高かった。また, 術後 5 年間の臨床データを両群で較べると, AHCC 群では GOT, γ -GPT の上昇が有意に抑えられており, コリンエステラーゼ値が有意に上昇していた。AHCC を摂取していた病期 IV の乳癌症例 (n=19) の survival rate は 9 年で約 60 % (全国集計約 20 %) であった。大腸癌症例で 5 年生存率をみると, 化学療法に AHCC 摂取を加えることにより, 一般他施設より予後の良い傾向が認められた。今後, AHCC の癌治療における有用性のさらなる検討が必要と思われる。

進行癌, 切除不能癌, 再発癌症例で, 西洋医学による予後を改善する具体的な治療手段がない場合, 臨床医はこれらの患者が自分にあった民間療法を探し出す過程に積極的に参加し, 専門家として指導, 援助を行うべきである。

参考文献

1. AHCC の基礎と臨床

監修, 細川眞澄男

編集, 山崎正利, 上山泰男

(株) ライフ・サイエンス 東京, 2003

2. Matsui Y, et al:

Improved prognosis of postoperative hepatocellular carcinoma patients treated with

Functional foods. J.Hepatol. 37:78-86,2002

◆上山泰男先生 略歴

医師。関西医科大学外科教授。外科医として患者の治療に携る傍ら、機能性食品の可能性を臨床医の視点から検証している。京都大学(肝臓外科), University of Pittsburgh(肝移植チーム), University of Maryland at Baltimore(ショック・トラウマ研究)などを経て、1992年より現在の西医科大学外科に勤務。

1966	京都大学医学部医学科卒業
1968	新宮市立市民病院外科医員
1969-1972	財団法人倉敷中央病院外科医員
1972	京都大学医学部第一外科小澤研究室にて研究を開始
1977-1979	アメリカ・メリーランド大学救急医療施設アカデミックスタッフ
1979-1982	京都大学第一外科助手
1982-1986	京都大学医学部第一外科講師
1986	アメリカ・ピッツバーグ大学肝器移植外科
1987-1990	医療法人洛和会音羽病院 副院長
1988	アメリカ・ピッツバーグ大学ヒト肝移植に関するピッツバーグ大学との共同研究
1990-1991	京都市立病院 副院長
1991	京都大学医学博士
1992	関西医科大学外科 教授 現在に至る